【80】 敗戦 80 年

今年が昭和 100 年といえますから、昭和 20 年 8 月に日本が戦争に負けてから 80 年になります。

当時、私は 5 歳。戦争の終盤をкаろうじて体験した絶滅危惧種の一人ですが、今でも鮮明に覚えている出来事を 3 つばかり披露します。

長じるに従いくり返し反芻しているので、原初のままの記憶というわけではありませんが、それなりに忘れられない体験です。

幼稚園に入って最初に教えられたのが、空襲に備えて待たされている防空頭巾のアゴ紐の結び方です。子供のことですからもちろん花結びなんて出来ませんが、固結びのやり方を覚えるまでくり返し練習させられました。

それと同時に、空襲の心構えの歌も覚えさせられました。

”	空襲警報	聞えてきたら	
	今は僕たち	小さいから	
	大人の言うこと	よく聞いて	
	慌てないで	騒がないで	
	落ち着いて	入って居ましょう	
	防空壕		”

けっこう軽快なリズムで、今でも節をつけて歌うことができます。

どなたか採譜して下さると後世への資料になると思います。

昭和 19 年 11 月、いよいよ東京への空襲が始まりました。

ラジオやサイレンで警戒警報や空襲警報の発令が知らされます。

警戒警報が出ると、茶の間の中央の畳 2 畳分を持ち上げて、床下部分を含め、深さ 1,5m 位の防空壕にお八つと絵本を持たせて子供たちだけが入れられました。子供たちはままごとみたいなもので、喜びです。

家が潰れたら逃げられないし、火事になったら蒸焼きですが、当局の指導でこんな事をさせられていたのです。

空襲警報が出ると流石に皆で公共の防空壕へ避難します。お袋が手回り品を持って妹を背負い私の手を引いて急ぎます。燈火管制の暗闇の中、サイレンは鳴り響くし、防空壕の中は見知らぬ大勢の人と一緒になので、子供心にも恐怖心を覚えました。

暮に、今はつくば市に属する筑波山の麓の農村に疎開しました。

後知恵になりますが、年の変わった 3 月 10 日に東京下町で 10 万人が焼死した大空襲がありました。直線距離で 70 k m 近く離れているのに、その大火はよく見えました。

それは凍えるような寒い夜で、地平線に一面に真っ赤な火の手が上がっており、近くの河川の土手に上り（霞ヶ浦に流入する桜川）、大人に混じって深夜遅くまで見ていました。

本格的な春になり暖かくなると、米軍は空から宣伝ビラを撒くようになりました。

飛行機の姿は見えないのに大空からヒラヒラと沢山のビラが降ってくるのが面白く、子供たちは田植前の見通しの良い田んぼを駆けまわってビラを拾い集めました。

中には、”ハリ－・エス・トルーマン大統領は日本国民に告ぐ“と漢字はお袋に教えてもらって読みました。わが人生で最初に覚えた外国人の名前です。

私も小箱一杯くらい宣伝ビラを貯めたのですが、お袋に見つかり、そんなもの持っていると言隊さんに叱られると脅かされ取り上げられ、燃やされてしまいました。

私は物持ちが良い方なので、このコレクションを今まで持っていたらテレビの”なんでも鑑定団”で高値が付いたのではと残念がっています。少々不謹慎ですね。